

収量550kg/10aを前提とした水稲「つくしろまん」の適正窒素吸収量と窒素栄養診断					
<p>[要約] 収量10a当たり550kgに対応する「つくしろまん」の生育時期別の適正な窒素吸収量は、幼穂形成期までに6kg/10a、穂揃期までに9.5kg/10a、成熟期までに11kg/10aである。また、幼穂形成期において、窒素吸収量は<u>草丈</u>と<u>茎数</u>と<u>葉色</u>との積で推定できる。</p>					
担当部署	土壌・環境部・施肥高度化チーム			連絡先	092-924-2939
対象作目	水 稲	専門項目	肥 料	成果分類	技術改良

[背景・ねらい]

水稲新品種「つくしろまん」は食味が優れ、今後普及が見込まれる品種である。当品種の収量水準は、外観品質および食味の安定する550kg/10a程度が、適切であると考えられる（平成14年度研究成果情報 水稲「つくしろまん」の品質向上のための栽培法）。そこで、収量550kg/10aに対応する生育時期別の適正な窒素吸収量を明らかにするとともに、穂肥施用時の栄養診断法を確立し、当品種の高品質安定生産を図る。

[成果の内容・特徴]

- 1．収量の目標を550kg/10aとした場合、 m^2 当たりの籾数の目安は2万8千粒で、これに対応する適正な窒素吸収量は穂揃期、成熟期までに各9.5kg/10a、11kg/10aである。また、このときコシヒカリ並の食味は確保できる（図1、一部データ略）。
- 2．2万8千粒に対応する穂数は m^2 当たり390本程度で、幼穂形成期までの適正な窒素吸収量は6kg/10aである（図2）。
- 3．草丈と茎数と葉緑素計値の積と幼穂形成期における窒素吸収量との関係は一次回帰式で表わされることから、窒素吸収量の適正值に対する多少を生育診断で判断することが可能である（図3）。

[成果の活用面・留意点]

- 1．福岡県水稲施肥基準に記載する。
- 2．窒素肥沃度の低い圃場においては、幼穂形成期における診断の結果、窒素吸収量が10a当たり6kgを下回った場合、穂肥量は $2+1.5kg/10a$ とする。

[具体的データ]

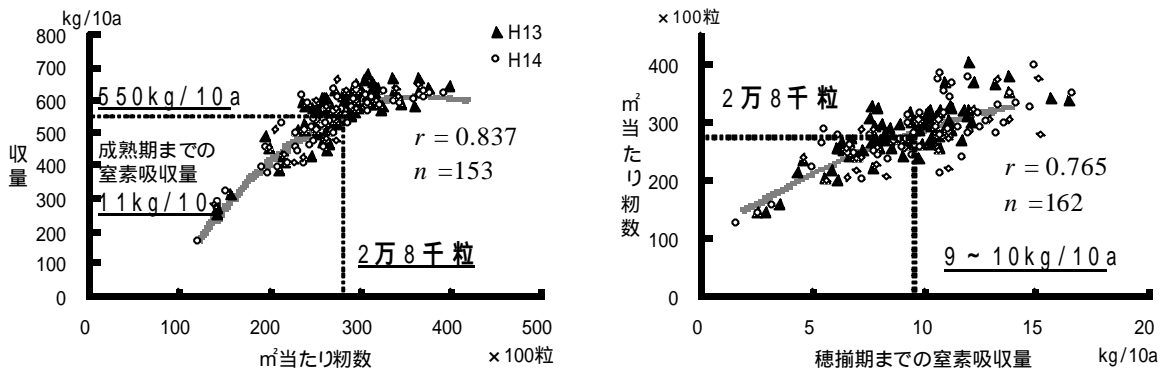


図1 収量目標550kg/10aに対応するm²当たり粒数と穂揃期までの窒素吸収量 (平成13~14年)

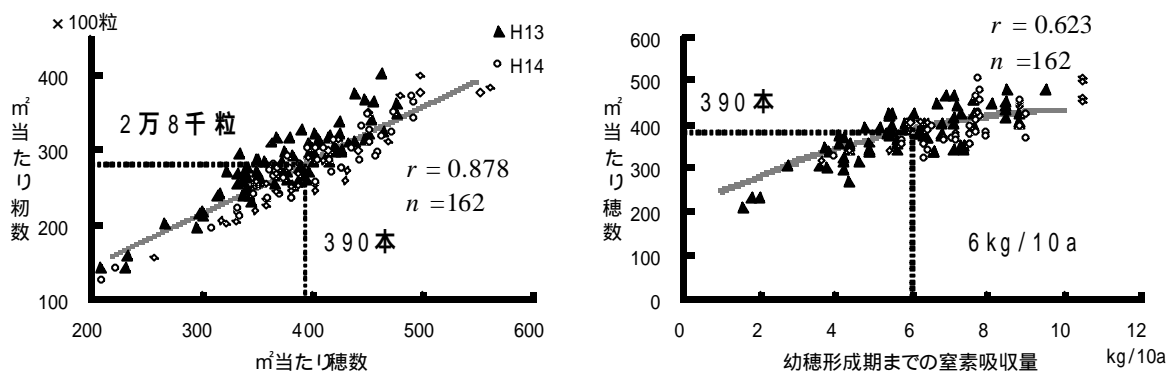


図2 m²当たり目標粒数2万8千粒に対応する穂数と幼穂形成期までの窒素吸収量 (注) 幼穂形成期は出穂約20日前とした。

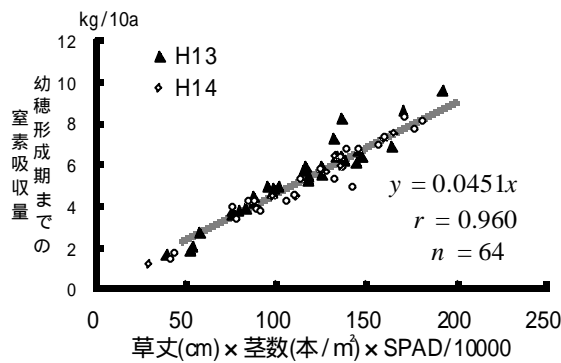


図3 幼穂形成期における窒素吸収量の診断

[その他]

研究課題名：環境負荷軽減のための良食味新品種に対する施肥法
 予算区分：経常
 研究期間：平成14年度(平成11~14年)
 研究担当者：荒木雅登、山本富三、満田幸恵、田中浩平、内川修

